

## エリア共通 (1) 単独工作物 (2) その他

項目		No	基準	景観計画	ガイドライン		
(1) 単独工作物	⑦ 道路関連施設	道路・歩道・自転車道	50	<input type="checkbox"/> 沿道の特性をふまえ、周囲の景観に配慮しましょう。		33p	
			51	<input type="checkbox"/> 景観を損なわないように路線の選定を行いましょう。		33p	
			52	<input type="checkbox"/> 歩行者や自転車利用者の視点を考慮し、眺望をうまく取り入れましょう。		33p	
			53	<input type="checkbox"/> 歩道及び自転車道では地域の特性を活かした舗装材の活用を努めましょう。		33p	
		横断歩道橋、地下歩道、トンネルなどの工作物	54	<input type="checkbox"/> 横断歩道橋及び地下歩道の上屋は、周囲の景観に調和するよう、意匠や色彩に配慮しましょう。		33p	
			55	<input type="checkbox"/> 地下歩道の地下部やボックスカルバートは安心感や明るさをもつ空間となるよう配慮しましょう。		33p	
		トンネル、ロックシェッド及びスノーシェッドの坑口は、周囲の景観との調和を図り、坑形状や壁面の処理に配慮しましょう。	56	<input type="checkbox"/>		33p	
			信号、標識、防護柵などの道路附属物	57	<input type="checkbox"/> 安全上支障のない範囲で、構造、意匠及び色彩を工夫し、景観に調和させましょう。		33p
				58	<input type="radio"/> 信号機や標識の柱などは目立ちにくい色にしましょう。		33p
		59		<input type="radio"/> 防護柵は景観を阻害することのない意匠、色彩としましょう。		33p	
	沿道の緑化	植栽ますやストリートファニチャーなどの配置、意匠、素材を工夫しましょう。	60	<input type="checkbox"/>		33p	
			61	<input type="checkbox"/> まちなかの道路にはできる限り連続した植樹帯を設けましょう。		33p	
			62	<input type="radio"/> 植樹帯には共通した種類の樹木や草花を植え、まちなみの統一感を演出しましょう。		33p	
		63	<input type="checkbox"/> 自然景観を有する地域の道路では、必要に応じて植樹帯を設けましょう。		33p		
		64	<input type="checkbox"/> 沿道で空きスペースのある場所には、必要に応じて、ポケットパークなどを整備しましょう。		33p		
		65	<input type="checkbox"/> 中央分離帯や交通島は、交通安全上支障のない範囲で、緑化などによる修景に努めましょう。		33p		
		橋りょうの意匠	66	<input type="checkbox"/> 水辺景観や眺望に配慮し、良好な景観が引き立つような構造・意匠としましょう。		33p	
			67	<input type="checkbox"/> 橋りょう本体と高欄、照明設備との連続性に配慮し、一体的な意匠をつくりあげましょう。		33p	
			68	<input type="radio"/> 配管や設備などはできるだけ目立たないようにしましょう。		33p	
		69	<input type="radio"/> 景観になじみやすい低彩度の色彩としましょう。		33p		
70	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、橋のたもとや橋上に、視点場となる広場やバルコニーを設置しましょう。		33p				

項目		No	基準	景観計画	ガイドライン	
(2) その他	① 開発行為・土地の形質の変更	環境保全	1	■ 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺などは極力保全し、活用するように努めること。	45p	
			法面・擁壁	2	■ 大規模な法面、擁壁をできるだけ生じないようにし、やむを得ない場合は、緩やかな勾配とし、緑化に努めること。	45p
		3		■ 擁壁は、材料、表面処理の工夫、前面の緑化などにより周囲の景観との調和を図ること。	45p	
		4	◎ 法面や擁壁は表面処理の工夫などによっての周囲との調和を図りましょう。		34p	
		5	◎ 敷地の傾斜を活かした計画とし、大規模な法面や擁壁が生じないようにしましょう。		34p	
		6	○ 大規模な斜面は途中で犬走り(細長い通路)などを設置し、圧迫感を軽減しましょう。		34p	
		7	○ コンクリートの型枠や仕上げ材で表面処理を工夫し、周囲になじみやすい意匠としましょう。		34p	
		8	○ 法面は樹木や地被植物で覆いましょう。		34p	
		9	・ 擁壁を後退し、前面に植物を植えましょう。		34p	
		10	・ 植栽には在来種を用いましょう。		34p	
		11	・ 種子の飛散しやすい外来種は植えないようにしましょう。		34p	
	② 土物の採取	採取方法などの工夫	12	■ 外部から目立ちにくいよう、採取及び掘探の位置、方法を工夫し、周囲の緑化などに努めること。	45p	
			13	◎ 周囲から目立ちにくいように採取位置、方法を工夫し、周囲を緑化しましょう。		34p
			14	○ 周囲からむき出しで見える場所での採取は控えましょう。		34p
			15	○ 敷地周辺の緑化に努めましょう。		34p
	採取後の修景	16	■ 採取及び掘探後は自然植生と調和した緑化などにより修景すること。	45p		
		17	◎ 採取後は自然植生と調和した緑化などによって修景しましょう。		34p	
	③ 物件の集積	集積方法	18	■ 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。	46p	
			19	◎ 物件の高さはできるだけ抑え、周囲から見えにくいように遮蔽しましょう。		34p
			20	◎ 物件は整然と、威圧感のないように積みましょう。		34p
		周囲への配慮	21	■ 道路などから見えにくいよう遮へいし、その際、植栽や木塀の設置などにより周囲の景観との調和に努めること。	46p	
			22	◎ 植栽や木塀などによって遮蔽しましょう。		34p
			23	◎ 眺望を阻害しないよう配慮しましょう。		34p

### 凡例

■：景観計画に定めのある基準(遵守規準)  
 ◎：景観計画の基準と概ね同一の基準(遵守規準)  
 ○：景観計画の基準を具体化した基準(努力基準)  
 ⇒チェックシートでの確認が必要

・：よりよい景観をつくるための工夫(推奨基準)  
 ⇒チェックシートの確認は任意